一般財団法人　愛知県バスケットボール協会
〒460－0008 愛知県名古屋市中区栄五丁目13番21号 パネ協名古屋センタービル8階　TEL 052－253－9400　FAX 052－684－7799
AICHI BASKETBALL ASSOCIATION #8F 5-13-21, Sakae, Naka-ku, Nagoya-City, Aichi, 460-0008, JAPAN TEL +81-52-253-9400 FAX +81-52-684-7799

マンツーマンコミッショナーＱ＆Ａ

①長身者が制限区域内にとどまり続ける事象
②オフェンスリバウンドの後のマッチアップがない
③マッチアップが不明確な状態から、トラップに行くケースがある
④トラップ専門とされている選手がいる
→マッチアップさせないといけないのでマッチアップを促す。改善なければ旗の対応あり。（2-2-2、7-2-1）
→5-2-7 でトラップを行わない＝努力目標としての提示。(判定基準Ｖ-①)
→ 最初だけマッチアップして、その後マッチアップしないのは違反（5-3-1）
⑤完全にビジョンをなくす選手がいる
→技術不足の場合はやむなし（初心者が多い場合など）(3-3-6)
→ しかし上位に繋がるトーナメントでは相手が不利益を生じるので、促し及び旗の対応で改善を図る。
→ 都道府県上位、ブロック、全国では基本的に技術不足は考慮しにくい。
⑥フルコートでのスローイン時にスローインするプレイヤーへのマッチアップについて
→ スローインするプレイヤーにマッチアップできる場合、原則として適切なマッチアップを行うこと。　(7-1-2)
→ 意図的に異なるポジションを取っており、かつトラップやインターセプトを計画しているとみなされる場合は旗の対応を行う。
→ マッチアップしていることが MC にわかるようにすること。(1-2-1)
⑦アイソレーションオフェンスの際のディフェンスの捉え方
→ オフェンスが動かないのでディフェンスも動かず、ゾーンに見えるがマッチアップをしている状態
→ オフェンス側が引き起こしている事象であると考える。(判定基準Ⅶ)
⑧スクリーン時のスクリナーディフェンスの捉え方
→ スクリーン後のマッチアップ状況を見る必要がある（1-3-3）
→ 長身者が制限区域内にとどまり続けるような事象であれば改善を促す。
⑨オフェンスからディフェンスの切り替わりにおけるマッチアップ
⑩本来マッチアップすべきものが違う（ガードはガード、ビッグはビッグというマッチアップ）
→ 攻防の切り替わり時は必ずしもマッチアップすべき対象になるとは限らない（ガードはガード、ビッグはビッグ、というマッチアップ)、チームが決める自由度を与えるべき（MC は管理できない）
→ ビッグマンを外に出したいからオフェンスのマークマン（シュート力がないものを意図

的にマッチアップする）がアウトサイドへ出るがついていかないのはどうなのか、についてはMCとしてコントロールするものではない。
→マッチアップが異なるだろう、ということはMCがコントロールできない
ゾーンであるとは見做さないので、異なるマッチアップになっても旗の対象ではない。
→ ディフェンスのスタートが1-2-1-1のような位置どり（エリア）からスタートすることはゾーンプレスとみなす。（まえがき）

⑪ディフェンスヘルプローテーションの捉え方

→ ヘルプが起こっている際は、ボールマンに二人集まることが起こる。これをゾーンとは見なさない。
→ その後にエリアを守り続けようとするのか、マッチアップに戻ろうとするかで判断する。（第4条ヘルプディフェンス）

⑫フルコートでの最も遠いプレイヤーのマッチアップ位置

かなり裏パスを狙う位置に来ており、トラップから出てくるパスを狙うインターセプターになる
→ 本来オフボールオフェンスプレイヤーへのマッチアップとは
「ボールマンになった時に戻ることができる、得点を防ぐことができる位置どりをすること」　（2線のポジショニングでの説明、基準規則では定義はされていない）
→U12の場合「投げられない＝ボールが行かない」ので「マークマンをマッチアップしているふりをして」「トラップや裏パスを狙う」プレーを指示する指導者がいる。
→ 距離を規定することは、常に変化する以上、数値を示すことは妥当ではないので行っていなかった。 2線がどこまでヘルプに寄って良いのか、と同じ議論と考える。
→オフェンスが空いているノーマークを攻めることで解決するべきであるが、それができないレベル の攻防において指導者がそのプレーを狙わせることに問題がある。(3-3-6、まえがき、5-2-7)
→「ボールマンになった時に戻ることができる、得点を防ぐことができる位置どりをすること」に違反 している、という判断
トラップを仕掛け続けることが U12攻防であるべき姿かどうかは、指導者の考え方に関わる。 指導者が倫理観を持ってコーチングすることが大切で、あまりにコントロールするルール作りで縛ることはマンツーマン推進の方向性に逆行する。